官民協働のスマートシティによる持続可能なまち「加賀市は、スマートＳＤＧｓへ。」

石川県加賀市（2020年度選定）

1.地域の特徴と課題及び目標

人口約6万人の加賀市は、山代・山中・片山津の3温泉を有する観光地で、製造業、伝統産業が盛んである。市町村合併を繰り返してきた歴史から、7つの地域にそれぞれの生活拠点が存在する多極分散型の都市構造である。また、将来の若年女性の減少が著しいと予想され、「消滅可能性都市」に指摘されたことから、市民生活の質を向上させるスマートシティの推進をはかり「官民協働のスマートシティによる持続可能なまち」の実現を目指す。

2.関連するゴール

3.取組の概要（三側面をつなぐ統合的取組概要を含む）

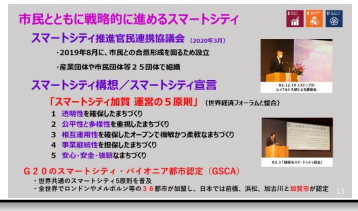
「持続可能なエネルギーの推進」と「2030 年の温室効果ガス排出量を国の削減目標以上の削減」のため、地域における再生可能エネルギーへのシフトと関連事業による経済循環を図る。
また、市民の身近な課題解決に役立つ先端技術の社会実装に率先して取り組み持続可能なスマートシティを目指す。

4.自治体SDGs推進等に向けた取組

・市民生活の質を向上させる先進技術の社会実装のため、各種実証実験を推進。
・スマートシティの実現に向け、リスキリングに取り組む市内事業者への支援への支援や先端技術に関する講習等を行った。
・電子市民プログラム「e-加賀市民制度」の導入。電子上の市民になることで、市外の方でもつながりを創出し、移住体験プログラムの提供等の準じたサービスを提供。

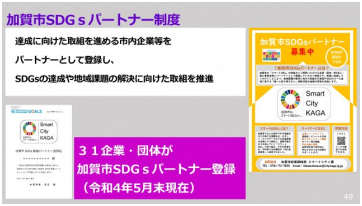
5.取組推進の工夫

・必要な合意形成を迅速に確実に図るため、官民連携協議会を設立
・スマートシティ宣言で「スマートシティ加賀 運営の５原則」を示すなど、官民の連携体制構築を推進



6.取組成果

取り組み成果のKPIについては次のとおりである。
（2023年時点／2023年目標に対する達成度）
公共施設の太陽光パネル設置数（14件/89%）
先端技術を活用した実証実験の実施数の累計
※官民連携によるもの　（ 5件/100%）
MaaSアプリのダウンロード件数　（ 1,457件/29%）
MaaSアプリによる提供サービス数　（ 5件/71%）
e-加賀市民登録者数　（ 345件/69%）
リスキリングセミナーの開催　（１件/100%）
コンピュータクラブハウスの利用数（ 1,721件/101%）
加賀市SDGｓパートナー制度への登録件数
（ 51件/51%）



7.今後の展開策

・これまで各種実証等を積極的に行ってきたが、徐々に実装フェーズに移行する事業も出てきている。
今後もこのような各関係者連携による利便性向上等の取り組みを進めるとともに、新たな事業の実証などについても積極的に行っていきたい。

8.他地域への展開状況（普及効果）

令和5年度は関係事業に係る行政・議会視察が9件ありました。
その他、各種事業説明や講演等の機会があれば、これらの取り組みの発信を行っております。

SDGs未来都市等進捗評価結果報告シート

2020年度選定

石川県加賀市

2024年9月

SDGs未来都市計画名	加賀市　SDGｓ未来都市計画 官民協働のスマートシティによる持続可能なまち「加賀市は、スマートSDGsへ。」
自治体ＳＤＧｓモデル事業 又は特に注力する先導的取組	―

2020年度

第１期SDGs未来都市計画（2020～2022）の進捗評価結果報告シート（様式3-2）

石川県加賀市　第１期ＳＤＧｓ未来都市計画：計画期間2020年～2022年

（１）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022年	2030年（目標値）	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	自治体新電力加入件数 【7.2,7.a,8.3,9.5,12.b,17.17】	2020年　70 件（高圧）	2022年　79 件（高圧）	2030年　100 件（高圧）	30%	目標達成度が低いため、第2期計画では取組達成へ向け推進を図る予定。
2	MaaSアプリのダウンロード件数 【8.9】	2020年　0 DL	2022年　1117 DL	2030年　5,000 DL	22%	目標達成度が低いため、第2期計画では取組達成へ向け推進を図る予定。
3	コンピュータクラブハウス加賀の利用者数 【4.4, 9.5 】	2019年　800 人	2022年　1320 人	2030年度　1,700 人	58%	目標達成度が低いため、第2期計画では取組達成へ向け推進を図る予定。
4	女性就業率 【5.b】	2015年度　50.9 %	2022年　55.5 %	2030年　67.4 %	28%	目標達成度が低いため、第2期計画では取組達成へ向け推進を図る予定。
5	合同面接会やテレワークによる新規障がい者雇用件数 【10.2】	2020年　3 件	2022年　1 件	2030年　9 件	-33%	目標達成度が低いため、第2期計画では取組達成へ向け推進を図る予定。
6	加賀市SDG ｓパートナー制度への登録件数 【11.6,17.17】	2020年　0 件	2022年　50 件	2030年　100 件	50%	目標達成度が低いため、第2期計画では取組達成へ向け推進を図る予定。
7	自治体新電力加入件数 【7.2,11.6,12.2,13.1,13.3,14.1,15.3,17.17】	2020年　70 件（高圧）	2022年　79 件（高圧）	2030年　100 件（高圧）	30%	目標達成度が低いため、第2期計画では取組達成へ向け推進を図る予定。
8	温室効果ガスの削減 【7.2,11.6,12.2,13.1,13.3,14.1,15.3,17.17】	2013年　667,494 t-CO_2	2022年　505960 t-CO_2	2030年　467,246 t-CO_2	81%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
9	公共施設の太陽光パネル設置数 【7.2,11.6,12.2,13.1,13.3,14.1,15.3,17.17】	2020年　6 施設	2022年　14 施設	2030年　15 施設	89%	2030年の目標へ向けて順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。

（２）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年 実績	2022年 目標値	達成度（%）	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	「加賀市版 RE100」の推進	自治体新電力加入件数	2020年　70 件	2022年　79 件	2022年　80 件	90%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
2	加賀市版スマートシティの推進	先端技術を活用した実証実験の実施数（累計） ※官民連携によるもの	2020年　0 件	2022年　1 件	2022年　4 件	25%	目標達成度が低いため、第2期計画では取組達成へ向け推進を図る予定。
3	「加賀市版MaaS」の推進	MaaSアプリのダウンロード件数	2020年　0 件	2022年　1117 DL	2022年　2,500 DL	45%	目標達成度が低いため、プロモーションなど周知活動を積極的に行う必要がある。第2期計画では取組達成へ向け推進を図る予定。
4	「加賀市版MaaS」の推進	MaaSアプリによる提供サービス（機能）数	2020年　0 件	2022年　5 件	2022年　7 件	71%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
5	未来を担う産業人材の育成	コンピュータクラブハウス加賀の利用数（再掲）	2019年度　800 件	2022年　1,320 件	2022年度　1,500 件	74%	順調に進捗しており引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
6	未来を担う産業人材の育成	先端技術を活用した実証実験の実施数（再掲）	2020年　0 件	2022年　1 件	2022年　4 件	25%	目標達成度が低いため、第2期計画では取組達成へ向け推進を図る予定。
7	産学官金協働によるSDG ｓの推進	加賀市SDG ｓパートナー制度への登録件数（再掲）	2020年　0 件	2022年　50 件	2022年　30 件	167%	目標が達成できており、第2期計画では、見直し更なる推進を図る予定。

（３）第１期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容
（1）2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況
指標5：合同面接会やテレワークによる新規障がい者雇用件数
・ 達成度がマイナスとなっており、今後は更なる対象職員が担う業務の拡大と、任用の増員のため、職場環境や体制の整備を進めていく必要がある。
（2）自治体SDG ｓの推進に資する取組の達成状況
指標2、6：先端技術を活用した実証実験の実施数
・ 令和4年度実績が低くなっているが、これまで各種実証という形で続けてきた事業について実装を目指した検討への移行又は事業の終了になるケースが出ていることによるもの。
事業の内容により新たな実証も進めていきたいと考えている。
指標7：加賀市SDG ｓパートナー制度への登録件数
・ 達成度100%に到達したが、引き続き実証事業等の実施により新たな技術の社会実装を加速させ、スマートシティ化を目指す。
●成果
「加賀市 SDGs 推進パートナー制度」において、パートナーに向け、SDGs の概念から本市の SDGs の取組に関する講習会や意見交換会を開催している。
「加賀市スマートシティ推進官民連携協議会」等の各種協議会を軸として、官民が協働してスマートシティに向けた取組みや実証実験等の積極的な実践ができる体制を整えている。
●課題
目標に対して未達項目があるため、取り組みを継続して実施していく必要がある。
●今後の展望
短期間ではなかなか結果に結びつかないものの、普及活動等を継続していくことで徐々に浸透させ、一つでも多くの項目を達成させていきたい。

（４）有識者からの取組に対する評価

・スマートシティを中核とする事業のネットワーク展開を期待する。
・KPIの達成率が低い要因を把握し分析して、第２期の事業計画に反映することが重要である。